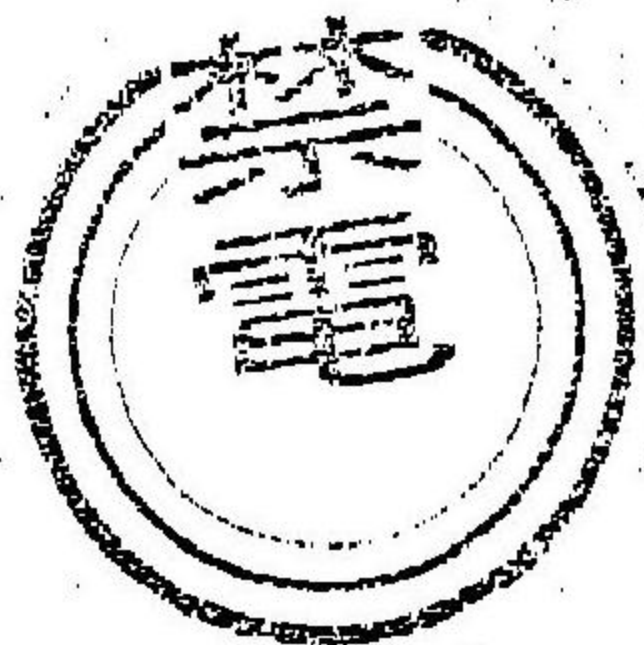
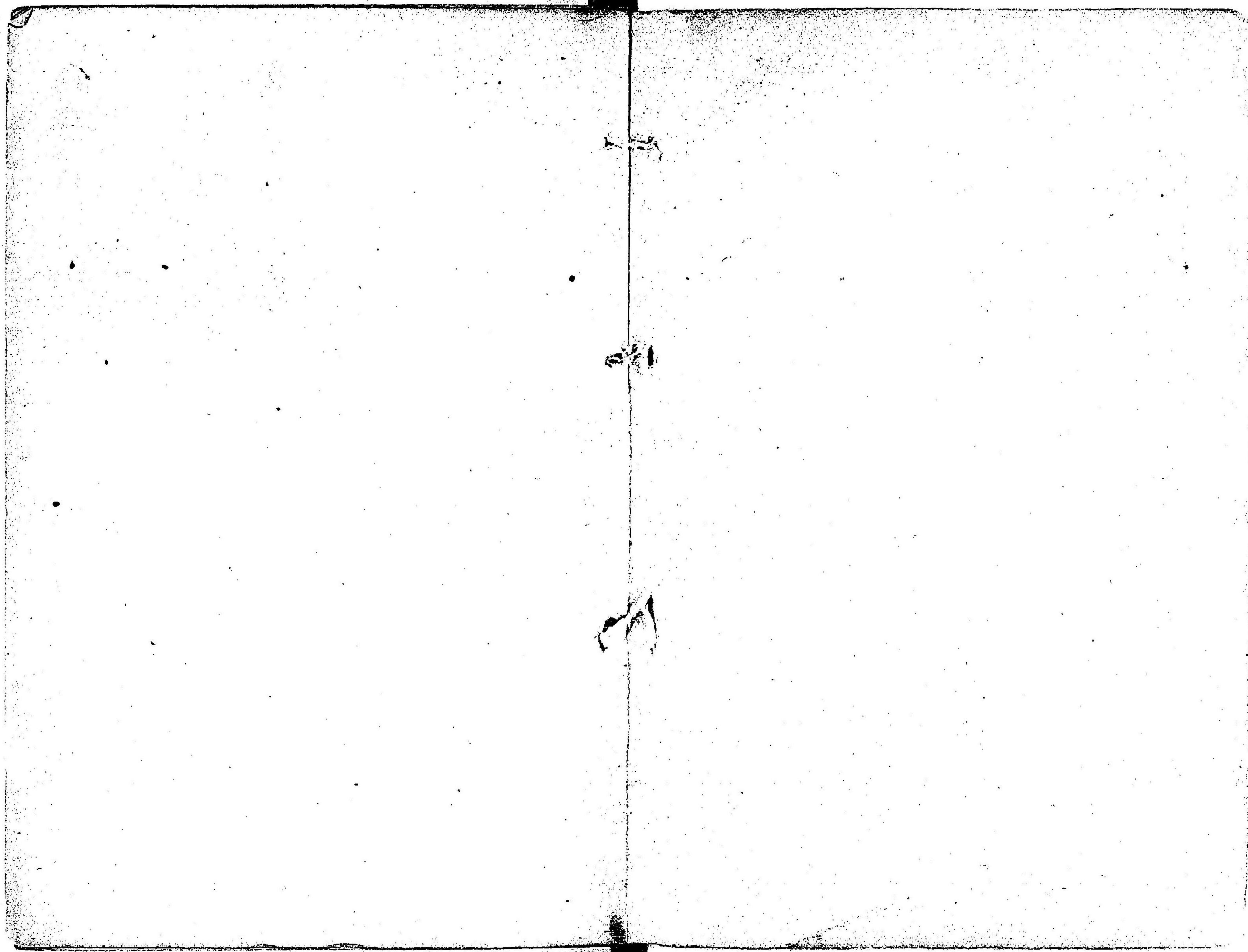


1
1
20



刑 治  
罪 罪  
法 法

全





第三章	加減例	二十一丁
第四章	不論罪及ヒ減輕	二十五丁
第一節	不論罪及ヒ宥恕減輕	全丁
第二節	自首減輕	二十八丁
第三節	酌量減輕	二十九丁
第五章	再犯加重	三十丁
第六章	加減順序	三十二丁
第七章	數罪俱發	三十三丁
第八章	數人共犯	三十四丁
第一節	正犯	三十五丁
第二節	從犯	三十六丁
第九章	未遂犯罪	三十七丁

第十章	親屬例	三十八丁
第二編	公益ニ關スル重罪輕罪	四十一丁
第一章	皇室ニ對スル罪	全丁
第二章	國事ニ關スル罪	四十二丁
第一節	内亂ニ關スル罪	全丁
第二節	外患ニ關スル罪	四十五丁
第三章	靜謐ヲ害スル罪	四十七丁
第一節	兇徒聚衆ノ罪	全丁
第二節	官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪	四十八丁
第三節	囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪	五十丁

第四節 附加刑ノ執行ヲ遁ル、  
罪 五十三丁

第五節 私ニ軍用ノ銃礮彈藥ヲ  
製造シ及ヒ所有スル罪 五十四丁

第六節 往來通信ヲ妨害スル罪 五十六丁

第七節 人ノ住所ヲ侵スル罪 五十八丁

第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪 六十丁

第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪 六十一丁

第四章 信用ヲ害スル罪 六十三丁

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪 全丁

第二節 官印ヲ偽造スル罪 六十六丁

第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪 六十九丁

第四節 私印私書ヲ偽造スル罪 七十丁

第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書  
ヲ偽造スル罪 七十二丁

第六節 偽證ヲ罪 七十四丁

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪 七十八丁

第八節 身分ヲ詐稱スル罪 八十丁

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル  
罪 全丁

第五章 健康ヲ害スル罪 八十二丁

第一節 阿片烟ニ關スル罪 全丁

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル  
罪 八十三丁

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪 八十四丁

第四節 危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪 八十五丁

第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪 八十六丁

第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪 八十七丁

第六章 風俗ヲ害スル罪 八十八丁

第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪 八十九丁

第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪 九十丁

第九章 官吏瀆職ノ罪 九十二丁

第一節 官吏公益ヲ害スル罪 全丁

第二節 官吏人民ニ對スル罪 九十三丁

第三節 官吏財産ニ對スル罪 九十九丁

第三編 身體財産ニ對スル重罪輕罪 百一丁

第一章 身體ニ對スル罪 全丁

第一節 謀殺故殺ノ罪 全丁

第二節 殴打創傷ノ罪 百二丁

第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪 百五丁

第四節 過失殺傷ノ罪 百八丁

第五節 自殺ニ關スル罪 百九丁  
 第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪 全丁  
 第七節 脅迫ノ罪 百十二丁  
 第八節 墮胎ノ罪 百十二丁  
 第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪 百十三丁  
 第十節 幼者ヲ零取誘拐スル罪 百十五丁  
 第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪 百十七丁  
 第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪 百十九丁  
 第十三節 祖父母父母ニ對スル罪 百二十二丁

第二章 財産ニ對スル罪

第一節 竊盜ノ罪 全丁  
 第二節 強盜ノ罪 百二十六丁  
 第三節 遺失物埋藏物ニ關スル罪 百二十八丁  
 第四節 家資分散ニ關スル罪 全丁  
 第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪 百二十九丁  
 第六節 贓物ニ關スル罪 百三十二丁  
 第七節 放火失火ノ罪 百三十三丁  
 第八節 決水ノ罪 百三十五丁  
 第九節 船舶ヲ覆没スル罪 百三十六丁

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ	百二十七丁
動植物ヲ害スル罪	
第四編 違警罪	百四十二丁

治罪法目錄

第一編 總則	一丁
第二編 刑事裁判所ノ構成及ヒ權限	十五丁
第一章 通則	全丁
第二章 違警罪裁判所	二十一丁
第三章 輕罪裁判所	二十二丁
第四章 控訴裁判所	二十六丁
第五章 重罪裁判所	二十八丁
第六章 大審院	三十丁
第七章 高等法院	三十二丁
第三編 犯罪ノ搜查起訴及ヒ豫審	三十五丁
第一章 搜查	全丁



第一節 告訴及ヒ告發	全丁
第二節 現行犯罪	三十九丁
第二章 起訴	四十二丁
第一節 檢察官ノ起訴	全丁
第二節 民事原告人ノ起訴	四十四丁
第三章 豫審	四十五丁
第一節 令狀	四十八丁
第二節 密室監禁	五十八丁
第三節 證據	五十九丁
第四節 被告人ノ訊問及ヒ對質	六十一丁
第五節 檢證及ヒ物件差押	六十四丁
第六節 證人訊問	六十九丁

第七節 鑑定	七十九丁
第八節 現行犯ノ豫審	八十三丁
第九節 保釋	八十六丁
第十節 豫審終結	九十丁
第四章 豫審上訴	九十六丁
第四編 公判	百九丁
第一章 通則	全丁
第二章 違警罪公判	百三十六丁
第三章 輕罪公判	百四十六丁
第四章 重罪公判	百五十七丁
第五編 大審院ノ職務	百七十三丁
第一章 上告	全丁

第二章 再審ノ訴

百八十五丁

第三章 裁判管轄ヲ定ムルノ訴

百九十丁

第四章 公安又ハ嫌疑ノ爲メ裁判

百九十二丁

管轄ヲ移スノ訴

第六編 裁判執行復権及ヒ特赦

百九十五丁

第一章 裁判執行

全丁

第二章 復権

百九十九丁

第三章 特赦

二百二丁

刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 凡法律ニ於テ罰ス可キ罪別テ三種ト爲ス

一 重罪

二 輕罪

三 違警罪

第二條 法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ

罰スルヲ得ス

第三條 法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスヲ得

ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新

舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス  
第四條 此刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論ス可  
キ者ニ適用スルコトヲ得ス

第五條 此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名  
アル者ハ各其法律規則ニ從テ  
若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ  
此刑法ノ總則ニ從フ

第二章 刑例

第一節 刑名

第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス  
主刑ハ之ヲ宣告ス  
附加刑ハ法律ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者

トヲ定ム

第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

- 一 死刑
  - 二 無期徒刑
  - 三 有期徒刑
  - 四 無期流刑
  - 五 有期流刑
  - 六 重懲役
  - 七 輕懲役
  - 八 重禁獄
  - 九 輕禁獄
- 第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

一 重禁錮

二 輕禁錮

三 罰金

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ違警罪ノ主刑ト爲

ス

二 拘留

二 科料

第十條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

一 剝奪公權

二 停止公權

三 禁治產

四 監視

五 罰金

六 沒收

第十一條 刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方法細目

ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第二節 主刑處分

第十二條 死刑ハ絞首ス但規則ニ定ムル所ノ官吏臨

檢シ獄内ニ於テ之ヲ行フ

第十三條 死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ

行フコトヲ得ス

第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フコトヲ禁ス

第十五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ナル時ハ

其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ

行ハス

第十六條 死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレハ之ヲ下付ス但式ヲ用ヒテ葬ルコトヲ許サス

第十七條 徒刑ハ無期有期ヲ分マス島地ニ發遣シ定役ニ服ス

有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第十八條 徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス内地ノ懲役場ニ於テ定役ニ服ス

第十九條 徒刑ノ囚六十歳ニ滿ル者ハ通常ノ定役ヲ免シ其體力相當ノ定役ニ服ス

第二十條 流刑ハ無期有期ヲ分マス島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス

有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第二十一條 無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限リ居住セシムルコトヲ得

有期流刑ノ囚三年ヲ經過スル者亦同シ

第二十二條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス但六十歳ニ滿ル者ハ第十九條ノ例ニ從フ

重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十三條 禁獄ハ内地ノ獄ニ入レ定役ニ服セス

重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十四條 禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス

禁錮ハ重輕ヲ分テ十一月以上五年以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第二十五條 定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ給與ス但現役百日以内ハ給與ノ限ニ在ラス

第二十六條 罰金ハ二圓以上ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

第二十七條 罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ

一日ニ計算ス

罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ求ニ因リ裁判官之ヲ命ス但禁錮ノ期限ハ二年ニ過ルルコトヲ得ス

若シ禁錮限内罰金ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ禁錮ヲ免ス親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納メタル時亦同シ

第二十八條 拘留ハ拘留所ニ留置シ定役ニ服セス其刑期ハ一日以上十日以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第二十九條 科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

第三十條 科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ納完セ  
シム若シ限内納完セサル者ハ第二十七條ノ例ニ照  
シ之ヲ拘留ニ換フ

第三節 附加刑處分

- 第三十一條 剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス
- 一 國民ノ特權
  - 二 官吏ト爲ルノ權
  - 三 勳章年金位記貴號恩給ヲ有スルノ權
  - 四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權
  - 五 兵籍ニ入ルノ權
  - 六 裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述  
スルハ此限ニ在ラス

七 後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲  
メニスルハ此限ニ在ラス

八 分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ  
管理スルノ權

九 學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

第三十二條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告  
ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス

第三十三條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用  
ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間公權ヲ行フコ  
トヲ停止ス

第三十四條 輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付タル者ハ別  
ニ宣告ヲ用ヒス監視ノ期限間公權ヲ行フコトヲ停止

主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル者亦同シ

第三十五條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告

ヲ用ヒス其主刑ノ終ルマテ自ラ財産ヲ治ムルヲ  
禁ス

第三十六條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル時ハ行政

ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルコトヲ得

第三十七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告

ヲ用ヒス各本刑ノ短期三分ノ一ニ等シキ時間監視  
ニ付ス

第三十八條 輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告ス

但各本條ニ記載スルノ外監視ニ付スルコトヲ得ス

第三十九條 死刑及ヒ無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者

ハ別ニ宣告ヲ用ヒス五年間監視ニ付ス

第四十條 監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算

ス主刑ノ期滿免除ヲ得タル時ハ其捕ニ就キタル日

ヨリ起算ス

若シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル時ハ其裁判

確定ノ日ヨリ起算ス

第四十一條 監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因リ行

政ノ處分ヲ以テ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得

第四十二條 附加ノ罰金ハ之ヲ宣告ス若シ一月内ニ

納完セサル時ハ第二十七條ノ例ニ照シ輕禁錮ニ換

ヘ主刑滿限ノ後之ヲ執行ス



第四十三條 左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ

一 法律ニ於テ禁制シタル物件

二 犯罪ノ用ニ供シタル物件

三 犯罪ニ因テ得タル物件

第四十四條 法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係ル又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルコトヲ得ス

第四節 徵償處分

第四十五條 刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯

人ニ科ス但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 犯人刑ニ處セラレ又ハ放免セラレト雖モ被害者ノ請求ニ對シ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ免カル、コトヲ得ス

第四十七條 數人共犯ニ係ル裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ共犯人ヲシテ之ヲ連帶セシム

第四十八條 裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得若シ贓物犯人ノ手ニアル時ハ請求ナシト雖モ直チニ之ヲ被害者ニ還付ス

第五節 刑期計算

第四十九條 刑期ヲ計算スルニ二日ト稱スルハ二十

四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

受刑ノ初日ハ時間ヲ論セズ一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セス

第五十條 刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス

第五十一條 刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス若シ上訴ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ從フ

- 一 犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナル時ハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス若シ其上訴不當ナル時ハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス
- 二 檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ其上訴正當ナルト否ト

ヲ分タス前判宣告ノ日ヨリ起算ス  
三 上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者ハ其日數ヲ刑期ニ算入スルコトヲ得ス

第五十二條 刑期限内逃走再捕ニ就キタル者ハ其逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算ス

第六節 假出獄

第五十三條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ謹守シ悔改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許ストコトヲ得  
無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同シ  
流刑ノ囚ハ第二十一條ニ照シ幽閉ヲ免スルノ外假出獄ノ例ヲ用ヒス

第五十四條 徒刑ノ囚ハ假出獄ヲ許サル、ト雖モ仍ホ島地ニ居住セシム

第五十五條 假出獄ヲ許サレタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルコトヲ得但本刑期限内特別ニ定メタル監視ニ付ス

第五十六條 假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スルコトヲ得ス

第五十七條 刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ許サス

第七節 期滿免除

第五十八條 刑ノ執行ヲ遁レタル者法律ニ定メタル

期限ヲ經過スルニ因テ期滿免除ヲ得

第五十九條 主刑ハ左ノ年限ニ從テ期滿免除ヲ得

一死刑ハ三十年

二無期徒刑ハ二十五年

三有期徒刑ハ二十年

四重懲役重禁獄ハ十五年

五輕懲役輕禁獄ハ十年

六禁錮罰金ハ七年

七拘留科料ハ一年

第六十條 剝奪公權停止公權及ヒ監視ハ期滿免除ヲ得ス

附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得

沒收ハ五年ヲ經テ期滿免除ヲ得但禁制物ハ期滿免除ノ限ニ在ラス

第六十一條 期滿免除ハ刑ノ執行ヲ遁レタル日ヨリ起算ス若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタル時ハ其逃走ノ日ヨリ起算シ缺席裁判ニ係ル時ハ其宣告ノ日ヨリ起算ス

第六十二條 刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ對シ逮捕ヲ命シタル時ハ最終ノ令狀ヲ出シタル日ヨリ期滿免除ヲ起算ス

第八節 復權

第六十三條 公權ヲ剝奪セラレタル者ハ主刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後其情狀ニ因リ將來

ノ公權ヲ復スルコトヲ得

主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後亦同シ

第六十四條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直チニ復權ヲ得特赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ赦狀中記載スルニ非サレハ復權ヲ得ス

赦ニ因テ復權ヲ得タル者ハ自ラ監視ヲ免シタル者トス

第六十五條 復權ハ勅裁ニ非サレハ之ヲ得可カラズ

第三章 加減例

第六十六條 法律ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ記載シタル例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死

刑ニ入ルコヲ得ス

第六十七條 重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一死刑

二無期徒刑

三有期徒刑

四重懲役

五輕懲役

第六十八條 國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照

シテ加減ス

一死刑

二無期流刑

三有期流刑

四重禁獄

五輕禁獄

第六十九條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以

上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下

ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

第七十條 禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條

ニ記載シタル刑期金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ

一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦四分ノ一ヲ加フル

ヲ以テ一等ト爲ス

輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルコヲ得ス但禁錮ハ加

ヘテ七年ニ至ルコヲ得

第七十一條 禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處シ罰金ヲ減盡シタル時ハ科料ニ處ス禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下寡數一圓九十五錢以下ニ及フ時ハ亦拘留科料ニ處スルヲ得

第七十二條 拘留科料ニ該ル者加減ス可キ時ハ禁錮罰金ノ例ニ照シ其四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス

違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルヲ得ス但拘留ハ加ヘテ十二日ニ至ルヲ得減シテ一日以下ニ降ス  
一ヲ得ス科料ハ加ヘテ二圓四十錢ニ至ルヲ得減シテ五錢以下ニ降スヲ得ス

第七十三條 禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零

數ヲ生シ一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄ス

第七十四條 附加ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス若シ減盡シタル時ハ止テ主刑ヲ科ス

第四章 不論罪及ヒ減輕

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

第七十五條 抗拒ス可カラサル強制ニ遇ヒ其意ニ非

サルノ所爲ハ其罪ヲ論セス

天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危難ニ遇

ヒ自己若クハ親屬ノ身體ヲ防衛スルニ出タル所爲

亦同シ

第七十六條 本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲

シタル者ハ其罪ヲ論セス  
第七十七條 罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ハ其罪ヲ論セス  
但法律規則ニ於テ別ニ罪ヲ定メタル者ハ此限ニ在  
ラス

罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者ハ其罪  
ヲ論セス  
罪本重カル可クシテ犯ス時知ラサル者ハ其重キニ  
從テ論スルコトヲ得ス  
法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯スノ意ナシト爲スコ  
トヲ得ス

第七十八條 罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非  
ヲ辨別セサル者ハ其罪ヲ論セス

第七十九條 罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ  
論セス但滿八歳以上ノ者ハ情狀ニ因リ滿十六歳ニ  
過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得

第八十條 罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳ニ滿サル  
者ハ其所爲是非ヲ辨別シタルト否トヲ審察シ辨別  
ナクシテ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ  
滿二十歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコ  
トヲ得

若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑  
ニ二等ヲ減ス

第八十一條 罪ヲ犯ス時滿十六歳以上二十歳ニ滿サ  
ル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス

第八十二條 瘡啞者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス  
但情狀ニ因リ五年ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留  
置スルコトヲ得

第八十三條 違警罪ハ滿十六歲以上二十歲ニ滿サル  
者ト雖モ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得ス

滿十二歲以上十六歲ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ  
本刑ニ一等ヲ減ス十二歲ニ滿サル者及ヒ瘡啞者ハ  
其罪ヲ論セス

第八十四條 此節ニ記載スルノ外特別ノ不論罪宥恕  
減輕ハ各本條ニ於テ之ヲ記載ス

第二節 自首減輕

第八十五條 罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官

ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス但謀殺故殺ニ  
係ル者ハ自首減輕ノ限ニ在ラス

第八十六條 財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ  
其贓物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタル時ハ自首減輕ノ  
外仍ホ本刑ニ二等ヲ減ス其全部ヲ還償セスト雖モ  
半數以上ヲ還償シタル時ハ一等ヲ減ス

第八十七條 財産ニ對スル罪ヲ犯シ被害者ニ首服シ  
タル者ハ官ニ自首スルト同ク前二條ノ例ニ照シテ  
處斷ス

第八十八條 此節ニ記載スルノ外本條別ニ自首ノ例  
ヲ掲ケタル者ハ各其本條ニ從フ

第三節 酌量減輕



第八十九條 重罪輕罪違警罪ヲ分タス所犯情狀原諒  
ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルコトヲ得

法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ  
其酌量ス可キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スルコトヲ得

第九十條 酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ三等  
ヲ減ス

第五章 再犯加重

第九十一條 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重  
罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十二條 先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再  
犯輕罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十三條 先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯

違警罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ但一年内再ヒ

其違警罪裁判所ノ管轄地内ニ於テ犯シタル時ニ非  
サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第九十四條 再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後ニ非サ  
レハ之ヲ論スルコトヲ得ス

第九十五條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告  
シタル時ハ先ツ其定役ニ服ス可キ者ヲ執行シ定役

ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ定役ニ服  
スル刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル

時ハ先ツ其重キ者ヲ執行ス  
罰金科料ニ該ル者ハ順序ニ拘ハラス各之ヲ徵收ス

第九十六條 陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タル者再

ヒ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ初犯ノ非常律ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス

第九十七條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス

第九十八條 三犯以上ノ者ト雖モ其加重ノ法ハ再犯ノ例ニ同シ

第六章 加減順序

第九十九條 犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム但從犯及ヒ未遂犯罪ノ減等其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

一再犯加重

二宥恕減輕

三自首減輕

四酌量減輕

第七章 數罪俱發

第一百條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經スニ罪以上俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從テ處斷ス

重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト爲シ刑期ノ等シキ者ハ定役アル者ヲ以テ重ト爲ス

輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷ス

第一百一條 違警罪二罪以上俱ニ發シタル時ハ各其刑ヲ科ス若シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタル時ハ一ノ

重キニ從フ

第三百二條 一罪前ニ發シ己ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ該リ己ニ納完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ刑期ニ通算ス若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未ダ發セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタル者ハ其再犯ト比較シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セス

第三百三條 數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從フ時ト雖モ其沒收及ヒ徵償ノ處分ハ各本法ニ從フ

第八章 數人共犯

第一節 正犯

第三百四條 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス

第三百五條 八ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト爲ス

第三百六條 正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キ時ハ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者ニ及ホスヲ得ス

第三百七條 犯人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重ス可キ時ハ教唆者ヲ算入シテ多數ト爲スヲ得ス

第三百八條 事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當リ犯人教唆ニ乘シ其指定シタル以外ノ罪ヲ犯シ又ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指示シタル所ト殊ナル時

ハ左ノ例ニ照シテ教唆者ヲ處斷ス

一所犯教唆シタル罪ヨリ重キ時ハ止メ其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科ス

二所犯教唆シタル罪ヨリ輕キ時ハ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス

第二節 從犯

第百九條 重罪輕罪ヲ犯スコトヲ知テ器具ヲ給與シ又

ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑

ニ一等ヲ減ス但正犯現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ止メ其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減ス

第百十條 身分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ者從犯ト爲ル

時ハ其重キニ從テ一等ヲ減ス

正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免ス可キ時ト雖モ從犯ノ刑ハ其輕キニ從テ減免スルコトヲ得ス

第九章 未遂犯罪

第百十一條 罪ヲ犯サンコトヲ謀リ又ハ其豫備ヲ爲ス

ト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者ハ本條別ニ刑名ヲ記載スルニ非サレハ其刑ヲ科セス

第百十二條 罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行フト雖

モ犯人意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因リ未タ遂ケサル時ハ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第百十三條 重罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ

前條ノ例ニ照シテ處斷ス

輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ本條別ニ記載スルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルコトヲ得ス  
違警罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ其罪ヲ論セス

第十章 親屬例

第百十四條 此刑法ニ於テ親屬ト稱スルハ左ニ記載

シタル者ヲ云フ

- 一 祖父母父母夫妻
- 二 子孫及ヒ其配偶者
- 三 兄弟姊妹及ヒ其配偶者
- 四 兄弟姊妹ノ子及ヒ其配偶者

五 父母ノ兄弟姊妹及ヒ其配偶者

六 父母ノ兄弟姊妹ノ子

七 配偶者ノ祖父母父母

八 配偶者ノ兄弟姊妹及ヒ其配偶者

九 配偶者ノ兄弟姊妹ノ子

十 配偶者ノ父母ノ兄弟姊妹

第百十五條 祖父母ト稱スルハ高曾祖父母外祖父母

同シ父母ト稱スルハ繼父母嫡母同シ子孫ト稱スル

ハ庶子曾玄孫外孫同シ兄弟姊妹ト稱スルハ異父異

母ノ兄弟姊妹同シ

養子其養家ニ於ル親屬ノ例ハ實子ニ同シ

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

第一章 皇室ニ對スル罪

第一百十六條 天皇三后皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

第一百十七條 天皇三后皇太子ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ三月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

皇陵ニ對シ不敬ノ所爲アル者亦同シ

第一百十八條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處ス其危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第一百十九條 皇族ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰

金ヲ附加ス

第二百十條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第二章 國事ニ關スル罪

第一節 内亂ニ關スル罪

第二百十一條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他

明憲ヲ紊亂スルヲ目的ト爲シ内亂ヲ起シタル者

ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス

二 群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者

ハ無期流刑ニ處シ其情輕キ者ハ有期流刑ニ處ス

三 兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者

ハ重禁獄ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁獄ニ處ス

四 教唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役

ニ供シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二百十二條 内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器彈藥船

舶金穀其他軍備ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ己ニ内亂

ヲ起シタル者ノ刑ニ同シ

第二百十三條 政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀

殺シタル者ハ兵ヲ舉ルニ至ラスト雖モ内亂ト同ク

論シ其教唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處ス

第二百十四條 前三條ノ罪ハ未遂犯罪ノ時ニ於テ乃

チ本刑ヲ科ス

第二百二十五條 兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ  
其他内亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ第二百二十一條ノ例  
ニ照シ各一等ヲ減ス

内亂ノ陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等  
ヲ減ス

第二百二十六條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲スト雖モ未  
タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本  
刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

第二百二十七條 内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與  
シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二百二十八條 内亂ニ乘シテ人ノ身體財産ニ對シ内  
亂ノ目的ニ關セサル重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ通常

ノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二節 外患ニ關スル罪

第二百二十九條 外國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又ハ外國  
ト交戰中同盟國ニ抗敵シ其他本國ニ背叛シテ敵兵  
ニ附屬シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百三十條 交戰中敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラ  
シメ若クハ本國及ヒ同盟國ノ都府城塞又ハ兵器彈  
藥船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交  
付シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百三十一條 本國及ヒ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ  
漏泄シ若クハ兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵  
國ニ通知シタル者ハ無期流刑ニ處ス



敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ之ヲ藏匿シタル者亦同シ

第一百三十二條 陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ爲ス者交戦ノ際敵國ニ通謀シ又ハ其賂遺ヲ收受シテ命令ニ違背シ軍備ノ缺乏ヲ致シタル時ハ有期流刑ニ處ス

第一百三十三條 外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キタル者ハ有期流刑ニ處ス其豫備ニ止ル者ハ一等又ハ二等ヲ減ス

第一百三十四條 外國交戦ノ際本國ニ於テ局外中立ヲ布告シタル時其布告ニ違背シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

第一百三十五條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第一節 兇徒聚衆ノ罪

第一百三十六條 兇徒多衆ヲ嘯聚シテ暴動ヲ謀リ官吏ノ説諭ヲ受クルト雖モ仍ホ解散セサル者首魁及ヒ教唆者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス附和隨行シタル者ハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス  
第一百三十七條 兇徒多衆ヲ嘯聚シテ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シ又ハ村市ヲ騷擾シ其他暴動ヲ爲シタル者首魁及ヒ教唆者ハ重懲役ニ處ス其嘯聚ニ應シ煽

動シテ勢ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者  
ハ一等ヲ減ス附和隨行シタル者ハ二圓以上二十圓  
以下ノ罰金ニ處ス

第三百三十八條 暴動ノ際人ヲ殺死シ若クハ家屋船舶  
倉庫等ヲ燒燬シタル時ハ現ニ手ヲ下シ及ヒ火ヲ放  
ツ者ヲ死刑ニ處ス

首魁及ヒ教唆者情ヲ知テ制セサル者亦同シ

第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

第三百三十九條 官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ  
又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行脅  
迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ四月以上四年以  
下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附

加ス

暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ爲ス可カラサル事件ヲ行  
ハシメタル者亦同シ

第四百十條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ官吏ヲ毆傷シタル  
者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從  
テ處斷ス

第四百十一條 官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容  
若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一月以上一年以  
下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附  
加ス

其目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書圖書又ハ公然ノ演  
說ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ

第三節

囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

第四百十二條 已決ノ囚徒逃走シタル者ハ一月以上

六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シテ逃走

シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四百十三條 已決ノ囚徒逃走ノ罪ヲ犯スト雖モ再

犯ヲ以テ論セス其刑期限内再ヒ逃走シタル者ハ再

犯ヲ以テ論ス

第四百十四條 未決ノ囚徒入監中逃走シタル者ハ第

百四十二條ノ例ニ同シ但原犯ノ罪ヲ判決スル時ニ

於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷ス

第四百十五條 囚徒三人以上通謀シテ逃走シタル時

ハ第四百十二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第四百十六條 囚徒ヲ逃走セシムル爲メ兇器其他ノ

器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示シタル者ハ三

月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以

下ノ罰金ヲ附加ス囚テ囚徒ノ逃走ヲ致シタル時ハ

一等ヲ加フ

第四百十七條 囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ囚

徒ノ逃走ヲ助ケタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁

錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ輕懲

役ニ處ス

第四百十八條 囚徒ヲ看守シ又ハ護送スル者囚徒ヲ

逃走セヌメタル時ハ亦前條ノ例ニ同シ  
第四百十九條 前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サント

シテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷

ス

第五百十條 看守又ハ護送者其懈怠ニ因リ囚徒ニ逃

走ヲ覺ラサル時ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處

ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ三圓

以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五百十一條 犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ付

セラレタル者ナルコトヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避

セシメタル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處

シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ一等

ヲ加フ

第五百十二條 他人ノ罪ヲ免カレシメントシテ圖リ其

罪證ト爲ル可キ物件ヲ隱蔽シタル者ハ十一日以上

六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰

金ヲ附加ス

第五百十三條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者犯人ノ親屬

ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第四節 附加刑ノ執行ヲ適ルノ罪

第五百十四條 公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セ

ヌレタル者私ニ其權ヲ行ヒタル時ハ一月以上二年

以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百五十五條 監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背

シタル時ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第百五十六條 前二條ノ罪ハ其刑期限内再ヒ犯シタ

ル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第五節 私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所

有スル罪

第百五十七條 官命ヲ受ケヌ又ハ官許ヲ得スシテ陸

海軍ノ用ニ供スル銃砲彈藥其他破裂質ノ物品ヲ製

造シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二

十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其之ヲ輸入シ

タル者亦同シ

前項ノ物品ヲ私ニ販賣シタル者ハ一月以上一年以

下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加

ス

第百五十八條 前條ノ罪ヲ犯スト雖モ職工又ハ雇人

ニシテ止メ正犯ノ使令ニ供シタル者ハ各本刑ニ照

シ二等ヲ減ス

第百五十九條 前二條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケ

サル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第百六十條 第百五十七條ニ記載シタル物品ヲ私ニ

所有シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十一條 第百五十七條ニ記載シタル物品ノ製

造ニ供シタル器械ニシテ單ニ其用ニ供ス可キ者ハ  
荷人ノ所有ヲ問ハズ之ヲ沒收ス

第六節 往來通信ヲ妨害スル罪

第六十二條 道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シテ往來ヲ

妨害シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ

二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十三條 偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若

シテ之ヲ阻止シタル者ハ亦前條ニ同シ

第六十四條 電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ

切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シタル者ハ三月以上三年

以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

若シ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲ爲スト  
雖モ不通ニ至ラサル時ハ一等ヲ減ス

第六十五條 瀛車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及

其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シタル者ハ

重懲役ニ處ス

第六十六條 船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺浮標

其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐偽

ノ標識ヲ點示シタル者ハ亦前條ニ同シ

第六十七條 前數條ニ記載シタル罪其事務ニ關ス

ル官吏及ヒ雇人職工自ラ犯シタル時ハ各本刑ニ照

シ一等ヲ加フ

第六十八條 第六十二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ殺

傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六十九條 第六十五條 第六十六條ノ罪ヲ犯

シ因テ氣車ヲ顛覆シ又ハ船舶ヲ覆没シタル時ハ無

期徒刑ニ處シ人ヲ死ニ致シタル時ハ死刑ニ處ス

第七十條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ

未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第七節 人ノ住所ヲ侵ス罪

第七十一條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ

人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ハ十一日以上

六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ左ニ記載シタル所爲アル時ハ一等ヲ加フ

一 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入りタ

ル時

二 兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ヲ携帯シテ入

リタル時

三 暴行ヲ爲シテ入りタル時

四 二人以上ニテ入りタル時

七十二條 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ

人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ハ一月以上一

年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ前條ニ記載シタル加重ス可キ所爲アル時ハ一

等ヲ加フ

第七十三條 故ナク皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵

内ニ入リタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪

第七十四條 官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其

他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル者ハ二月以

上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ看守者自ラ犯シタル時ハ一等ヲ加フ

第七十五條 官又封印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜取シ

又ハ毀壞シタル者ハ盜罪及ヒ毀壞ノ各本條ニ照シ

重キニ從テ處斷ス

第七十六條 看守者其懈怠ニ因リ封印ヲ破棄シ又

ハ其物件ヲ盜取毀壞スル犯人アルコトヲ覺ラサル時

ハ三圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪

第七十七條 陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要求スル

權アル官署ヨリ其要求ヲ受ケ故ナクシテ之ヲ肯セ

サル時ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以

上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七十八條 陸海軍ノ徵兵ニ編入セラレ可キ者身

體ヲ毀傷シテ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲ヲ以テ

免役ヲ圖リタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ

處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ニ囑託シ其氏名ヲ詐稱シ代テ徵募ニ應セ

ル者亦同シ其囑託ヲ受ケテ徵募ニ應シタル

者ハ第二百三十一條ノ例ニ照シテ處斷ス



第七十九條 醫師化學家其他職業ニ因リ官署ヨリ解剖分析又ハ鑑定ヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス  
第八十條 裁判所ヨリ證人トシテ證據ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ亦前條ニ同シ

第八十一條 傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル船舶入港スルニ當リ醫師其病患ヲ検査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
獸類傳染病流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯シタル時ハ

一等ヲ減ス

第四章 信用ヲ害スル罪

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

第八十二條 內國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ偽造シテ行使シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第八十三條 內國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第八十四條 官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ヲ偽造シ若シハ變造シテ行使シタル者ハ内外國ノ區別

從前二條ノ例ニ照シテ處斷スル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百八十六條 前數條ニ記載シタル貨幣ノ偽造變造已ニ成テ未タ行使セサル者ハ各本刑ニ照シ一等ヲ減シ其未タ成ラサル者ハ二等ヲ減ス

若シ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ著手セサル者ハ各三等ヲ減ス

第百八十七條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ雇ヲ受ケタル職工ハ前數條ニ記載シタル犯人ノ受ク可

キ刑ニ照シ各一等ヲ減ス 若シ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者ハ職工ノ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ減ス

第百八十八條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ偽造變造ノ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

第百八十九條 偽造變造ノ貨幣ヲ内國ニ輸入シタル者ハ偽造變造ノ刑ニ同シ

第百九十條 偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ取受メ之ヲ行使シタル者ハ偽造變造シテ行使シタル者ノ刑ニ照シ各二等ヲ減ス

其未タ行使セサル者ハ各三等ヲ減ス

第九十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第九十二條 貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入取受シタル者未タ行使セサル前ニ於テ官ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

若シ職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者未タ行使セサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第九十三條 貨幣ヲ取受スルノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナルコトヲ知リ之ヲ行使シタル者ハ其價額ニ倍ノ罰金ニ處ス但其罰金ハ二圓以下ニ降スコトヲ得ス

第九十四條 官印ヲ偽造スル罪

第九十四條 御璽國璽ヲ偽造シ又ハ其偽璽ヲ使用

シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第九十五條 各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス

第九十六條 產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス

書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第九十七條 御璽國璽官印記號印章ノ影贖ヲ盜用シタル者ハ前數條ニ記載シタル偽造ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

第九十八條

官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ

郵便切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シ

タル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以

上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十九條

已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便

切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ

罰金ニ處ス

第二百條

此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未

タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百一條

此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ

處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三節

官ノ文書ヲ偽造スル罪

第二百二條

詔書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ

無期徒刑ニ處ス

其詔書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百三條

官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行

使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百四條

公債證書地券其他官吏ノ公證シタル文

書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲

役ニ處ス

若シ無記名ノ公債證書ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

第二百五條

官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ増

減變換シテ行使シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一  
等ヲ加フ

其文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百六條 官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造  
シ又ハ盜用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重  
キニ從テ處斷ス

第二百七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ  
輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ  
付ス

第四節 私印私書ヲ偽造スル罪

第二百八條 他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ  
六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓

以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ノ印影ヲ盜用シタル者ハ一等ヲ減ス

第二百九條 爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買ス可キ證  
書若クハ金額ト交換ス可キ約定手形ヲ偽造シ又ハ  
増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス  
其手形證書ニ詐偽ノ裏書ヲ爲シテ行使シタル者亦  
同シ

第二百十條 賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關ス  
ル證書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ  
四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓  
以下ノ罰金ヲ附加ス  
其餘ノ私書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル

者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百十一條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百十二條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪  
第二百十三條 官ノ免狀又ハ鑑札ヲ偽造シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第二百十四條 屬籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐偽ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下付シタル者ハ一等ヲ加フ

第二百十五條 公務ヲ免カル可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タヌ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
醫師囑託ヲ受ケテ其詐偽ノ證書ヲ造リタル者ハ一等ヲ加フ

第二百十六條 陸海軍ノ徴兵ヲ免カル可キ爲メ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者及ヒ囑託ヲ受ケテ其詐僞ノ證書ヲ造リタル醫師ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百十七條 免狀鑑札及ヒ疾病ノ證書ヲ増減變換シテ行使シタル者ハ亦偽造ノ刑ニ同シ

第六節 偽證ノ罪

第二百十八條 刑事ニ關スル證人トシテ裁判所ニ呼出サレタル者被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽證ヲ爲シタル時ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス  
一 重罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰

金ヲ附加ス

二 輕罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
三 違警罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ違警罪ノ本條ニ依テ處斷ス

第二百十九條 偽證ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免カレタル時ハ偽證者ノ刑前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ  
第二百二十條 被告人ヲ陷害スル爲メ偽證ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス  
一 重罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ

罰金ヲ附加ス  
 二 輕罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
 三 違警罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十一條 偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ偽證者ヲ其刑ニ反坐ス若シ反坐ノ刑前條ニ記載シタル偽證ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス  
 其刑期限内ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ現ニ經

過シタル日數ニ照シテ反坐ノ刑期ヲ減スルコトヲ得但減シテ前條偽證ノ刑ヨリ降スコトヲ得ス

第二百二十二條 偽證ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレタル時ハ反坐ノ刑一等ヲ減ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ二等ヲ減ス  
 若シ被告人ヲ死ニ陷ルヘノ目的ヲ以テ偽證ヲ爲シタル時ハ死刑ニ反坐ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ一等ヲ減ス

第二百二十三條 民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽證ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以上ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
 第二百二十四條 鑑定又ハ通事ノ爲メ裁判所ニ呼出



サレタル者詐偽ノ陳述ヲ爲シタル時ハ前數條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百二十五條 賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐偽ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者ハ亦偽證ノ例ニ同シ

第二百二十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪  
第二百二十七條 度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官ノ記號印章ヲ

偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二百二十八條 偽造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シタル者ハ前條ノ刑ニ等ヲ減ス

第二百二十九條 商賈農工定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
若シ其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第二百三十條 人ノ囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ其囑託シタル犯人ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

第八節 身分ヲ詐稱スル罪

第二百三十一條 官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍身分氏名年齢職業ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十二條 官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章若クハ内外國ノ勳章ヲ僭用シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪

第二百三十三條 公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十五條 投票ヲ檢査シ及ヒ其數ヲ計算スル者其投票ヲ偽造シ又ハ増減シタル時ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十六條 調書ヲ造リ投票ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ増減シ其他詐偽ノ所爲アル時ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五章 健康ヲ害スル罪

第一節 阿片烟ニ關スル罪

第二百三十七條 阿片烟ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

第二百三十八條 阿片烟ヲ吸食スルノ器具ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第二百三十九條 税關官吏情ヲ知テ阿片烟及ヒ其器具ヲ輸入セシメタル者ハ前二條ノ刑ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百四十條 阿片烟ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖ル者ハ輕懲役ニ處ス

人ヲ引誘シテ阿片烟ヲ吸食セシメタル者亦同シ

第二百四十一條 阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上

三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二百四十二條 阿片烟及ヒ吸食ノ器具ヲ所有シ又

ハ受寄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

第二百四十三條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因

テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ十一

日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五圓以下

ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十四條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ用ヒテ

水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル者ハ一月以上一年

以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十五條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

第二百四十六條 傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第二百四十七條 船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スコヲ知テ制セサル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百四十八條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十九條 獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他處ニ出シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四節 危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪

第二百五十條 官許ヲ得スシテ危害ヲ生ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ二十圓以上二百圓以下

ノ罰金ニ處ス  
若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者  
ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十一條 官許ヲ得テ前條ニ記載シタル製造  
所ヲ創設スト雖モ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規  
則ニ違背シタル者ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第二百五十二條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死  
傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ  
從テ處斷ス

第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販  
賣スル罪  
第二百五十三條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ飲食物

ニ混和シテ販賣シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ  
罰金ニ處ス

第二百五十四條 規則ニ違背シテ毒藥劇藥ヲ販賣シ  
タル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又  
ハ死ニ致シタル者ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キ  
ニ從テ處斷ス

第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪

第二百五十六條 官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者  
ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十七條 前條ノ犯人治療ノ方法ヲ誤リ因テ  
人ヲ死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ

重キニ從テ處斷ス  
 第六章 風俗ヲ害スル罪  
 第二百五十八條 公然猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ三  
 圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第二百五十九條 風俗ヲ害スル冊子圖畫其他猥褻ノ  
 物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタル者ハ四圓以上四  
 十圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第二百六十條 賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ  
 招結シタル者ハ三月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ  
 十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
 第二百六十一條 財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル  
 者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五

十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情ヲ知テ房屋ヲ給與シ  
 タル者亦同シ但飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニ在ラス  
 賭博ノ器具財物其現場ニ在ル者ハ之ヲ沒收ス  
 第二百六十二條 財物ヲ醜集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥  
 倖スルノ業ヲ興行シタル者ハ一月以上六月以下ノ  
 重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
 第二百六十三條 神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公  
 然不敬ノ所爲アル者ハ三圓以上二十圓以下ノ罰金  
 ニ處ス  
 若シ説教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以上四十  
 圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

第二百六十四條 埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル者ハ  
一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓  
以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十五條 墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見  
ハシタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三  
圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上三年以下ノ重  
禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十六條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯サントシ  
テ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪  
第二百六十七條 偽計又ハ威力ヲ以テ穀類其他衆人

ノ需用ニ缺ク可カラサル食用物ノ賣買ヲ妨害シタ  
ル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上  
三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ニ記載シタル以外ノ物品ノ賣買ヲ妨害シタル  
者ハ一等ヲ減ス

第二百六十八條 偽計又ハ威力ヲ以テ糶賣又ハ入札  
ヲ妨害シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ  
處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十九條 偽計又ハ威力ヲ以テ農工ノ業ヲ妨  
害シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十條 農工ノ雇人其雇賃ヲ増サシメ又ハ農  
工業ノ景况ヲ變セシムル爲メ雇主及ヒ他ノ雇人ニ

對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十一條 雇主其雇賃ヲ減シ又ハ農工業ノ景況ヲ變スル爲メ雇人及ヒ他ノ雇主ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十二條 虛偽ノ風説ヲ流布シテ穀類其他衆人需用物品ノ價直ヲ昂低セシメタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

三第九章 官吏瀆職ノ罪

第一節 官吏公益ヲ害スル罪

第二百七十三條 官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布

施行セス又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害シタル者

ハ二月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十

圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十四條 兵隊ニ要求シ及ビ之ヲ使用スル權

アル官吏地方ノ騷擾其他兵權ヲ以テ鎮撫ス可キ時

ニ當リ其處分ヲ爲サル者ハ三月以上三年以下ノ

輕禁錮ニ處シ三十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十五條 官吏規則ニ違背シテ商業ヲ爲シテ

ル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百七十六條 官吏人民ニ對スル罪

第二百七十六條 官吏擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシテ其權

利ナキ事ヲ行ハシメ又ハ其爲ス可キ權利ヲ妨害シ



タル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十七條 人ノ身體財産ヲ妨害スルノ犯人アルニ當リ豫審判事檢事警察官吏其報告ヲ受ケテ速ニ保護ノ處分ヲ爲サ、ル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十八條 逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則ヲ遵守セスシテ人ヲ逮捕シ又ハ不正ニ人ヲ監禁シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過グルル毎ニ一等ヲ加フ

第二百七十九條 司獄官吏程式規則ヲ遵守セスシテ囚人ヲ監禁シ若クハ囚人ヲ出獄セシム可キノ時ニ至リ之ヲ放免セサル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第二百八十條 前二條ニ記載シタル官吏又ハ護送者囚人ニ對シ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
因テ囚人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第二百八十一條 水火震災ノ際官吏囚人ノ監禁ヲ解除シテ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加フ

第二百八十二條 裁判官檢事及ヒ警察官吏被告人ニ對シ罪狀ヲ陳述セシムル爲メ暴行ヲ加ヘ又ハ陵虐ノ所爲アル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第二百八十三條 裁判官檢察官故ナクシテ刑事ノ訴ヲ受理セス又ハ遷延シテ審理セサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其民事ノ訴ニ係ル者亦同シ  
第二百八十四條 官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ

又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
因テ不正ノ處分ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ

第二百八十五條 裁判官民事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ裁判ヲ爲シタル時ハ二等ヲ加フ  
第二百八十六條 裁判官檢察官吏刑事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其被告人ヲ陷害シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キ時ハ第二百二十一條第二百二十二條ノ例ニ照シテ反坐ス

第二百八十七條 裁判官檢事警察官吏賄賂ヲ收受聽許セスト雖モ情ニ徇カヒ又ハ怨ヲ挾サミ被告人ヲ曲庇陷害シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第二百八十八條 前數條ニ記載シタル賄賂已ニ收受シタル者ハ之ヲ沒收シ費用シタル者ハ其價ヲ追徵ス

第三節 官吏財産ニ對スル罪

第二百八十九條 官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス

因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シ又ハ毀棄シタル時ハ第二百五條ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百九十條 租稅其他諸般ノ入額ヲ徵收スル官吏正數外ノ金穀ヲ徵收シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百九十一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第二百九十一條 論罪 故殺ノ罪ニ處スル者ハ  
主謀殺シタル者ニ對スル重罪輕罪ノ別ニ依テ  
謀殺シタル者ニ對スル重罪輕罪ノ別ニ依テ  
謀殺シタル者ニ對スル重罪輕罪ノ別ニ依テ  
謀殺シタル者ニ對スル重罪輕罪ノ別ニ依テ  
謀殺シタル者ニ對スル重罪輕罪ノ別ニ依テ  
謀殺シタル者ニ對スル重罪輕罪ノ別ニ依テ  
謀殺シタル者ニ對スル重罪輕罪ノ別ニ依テ  
謀殺シタル者ニ對スル重罪輕罪ノ別ニ依テ  
謀殺シタル者ニ對スル重罪輕罪ノ別ニ依テ  
謀殺シタル者ニ對スル重罪輕罪ノ別ニ依テ

第三編 身體財產ニ對スル重罪輕罪

第三章 第一章 身體ニ對スル罪

第一節 謀殺故殺ノ罪

第二百九十二條 豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ノ罪ト爲シ死刑ニ處ス

第二百九十三條 毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス

第二百九十四條 故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺ノ罪ト爲シ無期徒刑ニ處ス

第二百九十五條 支解折割其他慘刻ノ所爲ヲ以テ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十六條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又

ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十七條 人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ死ニ致シタル者ハ故殺ヲ以テ論シ其豫

メ謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論ス  
第二百九十八條 謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ仍ホ謀故殺ヲ以テ論ス

第二節 毆打創傷ノ罪

第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス

第三百條 人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ヒ舌ヲ斷チ陰陽ヲ毀敗シ若クハ

知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其他身體ヲ殘虧シ廢疾ニ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百一條 人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス  
其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三條 豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シ休業癱篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ前數條ニ記載シタル刑ニ照シ各一等ヲ加フ

第三百三條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ毆打創傷シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第三百四條 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス

第三百五條 二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルヲ能ハサル時ハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス但教唆者ハ減

等ノ限ニ在ラス

第三百六條 二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セスト雖モ幫助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ減ス

第三百七條 健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ豫メ謀テ毆打創傷スルノ例ニ照シテ處斷ス

第三百八條 人ヲ殺スノ意ニ非スト雖モ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス

第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪  
第三百九條 自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チ

怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス  
但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限  
ニ在ラス

第三百十條 毆打シテ互ニ創傷シ其手ヲ下スノ先後  
ヲ知ルコト能ハサル者ハ各其罪ヲ宥恕スルコトヲ得

第三百十一條 本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ  
直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕  
ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラス

第三百十二條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入  
リ若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止  
スル爲メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

第三百十三條 前數條ニ記載シタル宥恕ス可キ罪ハ

各本刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス

第三百十四條 身體生命ヲ正當ニ防衛シ已ムコトヲ得  
サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ自己ノ爲メニ  
多他人ノ爲メニスルヲ分タス其罪ヲ論セス但不正  
ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラ  
ス

第三百十五條 左ノ諸件ニ於テ已ムコトヲ得サルニ出  
テ人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ論セス  
一 財産ニ對シ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止スルニ  
出タル時

二 盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スルニ出タル時  
三 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門

戸牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出タル時  
第三百十六條 身體財産ヲ防衛スルニ出ルト雖モ己  
ムコヲ得サルコト非スシテ害ヲ暴行人ニ加ヘ又ハ危  
害己ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人  
ニ加ヘタル者ハ不論罪ノ限ニ在ラス但情狀ニ因リ  
第三百十三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得

第四節 過失殺傷ノ罪

第三百十七條 疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス過  
失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ三十圓以上二百圓  
以下ノ罰金ニ處ス  
第三百十八條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ癱篤疾ニ致シ  
タル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十九條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至  
ラシメタル者ハ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五節 自殺ニ關スル罪

第三百二十條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ  
受ケテ自殺人ノ爲メニ手ヲ下シタル者ハ六月以上  
三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰  
金ヲ附加ス其他自殺ノ補助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ  
減ス

第三百二十一條 自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺  
セシメタル者ハ重懲役ニ處ス

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

第三百二十二條 擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シ



タル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

第三百二十三條 擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百三十四條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第三百二十五條 擅ニ人ヲ監禁シ水火震災ノ際其監禁ヲ解クコトヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ亦前條

ノ例ニ同シ

第七節 脅迫ノ罪

第三百二十六條 人ヲ殺サント脅迫シ又ハ人ノ住居シタル家屋ニ放火モント脅迫シタル者ハ一月以上

六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

毆打創傷其他暴行ヲ加ヘント脅迫シ又ハ財産ニ放火シ及ヒ毀壞劫掠セント脅迫シタル者ハ十一日

以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百二十七條 兇器ヲ持シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百二十八條 親屬ニ害ヲ加フ可キ事ヲ以テ脅迫  
 シタル者ハ亦前二條ノ例ニ同シ  
 第三百二十九條 此節ニ記載シタル罪ハ脅迫ヲ受ケ  
 タル者又ハ其親屬ヲ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス  
 第三百三十條 墮胎ノ罪  
 第三百三十一條 藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメ  
 タル者亦前條ニ同シ因テ婦女ヲ死ニ致シタル者  
 三年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス  
 第三百三十二條 醫師穩婆又ハ藥商前條ノ罪ヲ犯シ  
 タル者ハ各一等ヲ加フ

第三百三十三條 懷胎ノ婦女ヲ威逼シ又ハ誑騙シテ  
 墮胎セシメタル者ハ一年以上四年以下ノ重禁錮ニ  
 處ス  
 第三百三十四條 懷胎ノ婦女ナルコトヲ知テ毆打其他  
 暴行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ二年以上  
 五年以下ノ重禁錮ニ處ス其墮胎セシムルノ意ニ出  
 タル者ハ輕懲役ニ處ス  
 第三百三十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ癡篤  
 疾又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ  
 重キニ從テ處斷ス  
 第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪  
 第三百三十六條 八歳ニ滿サル幼者ヲ遺棄シタル者

ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス  
自ラ生活スルヲ能ハサル者若シ疾病者ヲ遺棄シタル者亦同シ

第三百三十七條 八歳ニ滿サル幼者又ハ老疾者ヲ寥  
闕無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ四月以上四年以下ノ  
重禁錮ニ處ス

第三百三十八條 給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保養ス  
可キ者前二條ノ罪ヲ犯シタル時ハ各一等ヲ加フ

第三百三十九條 幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ廢疾ニ致  
シタル者ハ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ重懲  
役ニ處シ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

第三百四十條 自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地内ニ

遺棄セラレタル幼者老疾者アルヲ知テ之ヲ扶助  
セズ又ハ官署ニ申告セサル者ハ十五日以上六月以  
下ノ重禁錮ニ處ス

若シ疾病ニ罹リ昏倒スル者アルヲ知テ扶助セズ  
又ハ申告セサル者亦同シ

第十節 幼者ヲ略取誘拐スル罪

第三百四十一條 十二歳ニ滿サル幼者ヲ略取シ又ハ  
誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ  
二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以  
下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十二條 十二歳以上二十歳ニ滿サル幼者ヲ  
略取シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ

一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十三條 略取誘拐シタル幼者ナルコトヲ知テ自己ノ家屬僕婢ト爲シ又ハ其他ノ名稱ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第三百四十四條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但略取誘拐セラレタル幼者式ニ從テ婚姻ヲ爲シタル時ハ告訴ノ效ナシ

第三百四十五條 二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取誘拐シ

テ外國人ニ交付シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪

第三百四十六條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ猥褻ノ所行ヲ爲シ又ハ十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以上以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十七條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十八條 十二歳以上ノ婦女ヲ強姦シタル者

ハ輕懲役ニ處ス  
藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシ  
メテ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ論ス

第三百四十九條 十二歳ニ滿サル幼女ヲ姦淫シタル  
者ハ輕懲役ニ處ス若シ強姦シタル者ハ重懲役ニ處  
ス

第三百五十條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ  
其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三百五十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ  
人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ  
重キニ從テ處斷ス但強姦ニ因テ廢篤疾ニ致シタル  
者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ

處ス

第三百五十二條 十六歳ニ滿サル男女ノ淫行ヲ勸誘  
シテ媒合シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ  
處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百五十三條 有夫ノ婦姦通シタル者ハ六月以上  
二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相姦スル者亦同シ  
此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但本夫先  
ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ效ナシ

第三百五十四條 配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シメ  
ル時ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上  
五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十二節 誣告及誹毀ノ罪

第三百五十五條 不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ第二百二十條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百五十六條 誣告ヲ爲スト雖モ被告人ノ推問ヲ始メサル前ニ於テ誣告者自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第三百五十七條 誣告ニ因テ被告人刑ニ處セラレタル時ハ第二百二十一條第二百二十二條ニ記載シタル例ニ照シテ處斷ス

第三百五十八條 惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ事實ノ有無ヲ問ハス左ノ例ニ照シテ處斷ス  
一公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ十一日以

上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二書類畫圖ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作爲シテ人ヲ誹毀シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百五十九條 死者ヲ誹毀シタル者ハ誣罔ニ出タルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルコトヲ得ス

第三百六十條 醫師藥商穩婆又ハ代言人辯護人代書人若クハ神官僧侶其身分職業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ因リ知得タル陰私ヲ漏告シタル者ハ誹毀ヲ以テ論シ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但裁判所ノ呼出ヲ

受ケテ事實ヲ陳述スル者ハ此限ニ在ラス  
第三百六十一條 此節ニ記載シタル誹毀ノ罪ハ被害者又ハ死者ノ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第十三節 祖父母父母ニ對スル罪

第三百六十二條 子孫其祖父母父母ヲ謀殺故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

其自殺ニ關スル罪ハ凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ

第三百六十三條 子孫其祖父母父母ニ對シ毆打創傷ノ罪其他監禁脅迫遺棄誣告誹毀ノ罪ヲ犯シタル者ハ各本條ニ記載シタル凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ但癱疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ

處ス

第三百六十四條 子孫其祖父母父母ニ對シ衣食ヲ供給セス其他必要ナル奉養ヲ缺キタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ  
第三百六十五條 祖父母父母ニ對シタル殺傷ノ罪ハ特別ノ宥恕及ヒ不論罪ノ例ヲ用フルヲ得ス但其犯ス時知ラサル者ハ此限ニ在ラス

第二章 財産ニ對スル罪

第一節 竊盜ノ罪

第三百六十六條 人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜

ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス  
第三百六十七條 水火震災其他ノ變ニ乘シテ竊盜ヲ  
犯シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス  
第三百六十八條 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰  
ヲ開キ邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ亦前條  
ニ同シ

第三百六十九條 二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタ  
ル者ハ各一等ヲ加フ

第三百七十條 兇器ヲ携帯シテ人ノ住居シタル邸宅  
ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ輕懲役ニ處ス  
第三百七十一條 自己ノ所有物ト雖モ典物トシテ他  
人ニ交付シ又ハ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタ

ル時之ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス

第三百七十二條 田野ニ於テ穀類菜菓其他ノ產物ヲ  
竊取シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十三條 山林ニ於テ竹木礦物其他ノ產物ヲ  
竊取シ又ハ川澤池沼湖海ニ於テ人ノ生養シ若クハ

營業ニ關スル產物ヲ竊取シタル者ハ亦前條ニ同シ  
第三百七十四條 牧場ニ於テ牧畜ノ獸類ヲ竊取シタ

ル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス  
第三百七十五條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サント

シテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷  
ス

第三百七十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ



刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス  
 第三百七十七條 祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者  
 又ハ同居ノ兄弟姊妹互ニ其財物ヲ竊取シタル者ハ  
 竊盜ヲ以テ論スルノ限ニ在ラス  
 若シ他人共ニ犯シテ財物ヲ分チタル者ハ竊盜ヲ以  
 テ論ス

第二節 強盜ノ罪

第三百七十八條 人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物  
 ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ輕懲役ニ處ス  
 第三百七十九條 強盜左ニ記載シタル情狀アル者ハ  
 一個毎ニ一等ヲ加フ  
 一二人以上共ニ犯シタル時

二兇器ヲ携帯シテ犯シタル時

第三百八十條 強盜人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處  
 シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス  
 第三百八十一條 強盜婦女ヲ強姦シタル者ハ無期徒  
 刑ニ處ス  
 第三百八十二條 竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒ク爲メ臨  
 時暴行脅迫ヲ爲シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス  
 第三百八十三條 藥酒等ヲ用ヒ人ヲ醉迷セシメ其財  
 物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論シ輕懲役ニ處ス  
 第三百八十四條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ  
 因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監  
 視ニ付ス

第三節 遺失物埋藏物ニ關スル罪

第三百八十五條 遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得テ隱匿シ所有主ニ還付セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百八十六條 他人ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得テ隱匿シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百八十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者

第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ

論セス

第四節 家資分散ニ關スル罪

第三百八十八條 家資分散ノ際其財産ヲ藏匿脱漏シ

又ハ虚偽ノ負債ヲ増加シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

情ヲ知テ虚偽ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

第三百八十九條 家資分散ノ際牒簿ノ類ヲ藏匿毀棄

シ若クハ分散決定ノ後債主中ノ一人又ハ數人ニ其負債ヲ私償シテ他ノ債主ヲ害シタル者ハ一月以上

二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル

罪

第三百九十條 人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月

以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
 因テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス  
 第三百九十一條 幼者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神錯亂シタルニ乘シテ其財物若クハ證書類ヲ授與セシメタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス  
 第三百九十二條 物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ人ニ交付シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス  
 第三百九十三條 他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物ト爲シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

テ論ス

自己ノ不動産ト雖モ已ニ抵當典物ト爲シタルヲ欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重ネテ抵當典物ト爲シタル者亦同シ  
 第三百九十四條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス  
 第三百九十五條 受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ騙取拐帶其他詐欺ノ所爲アル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス  
 第三百九十六條 自己ノ所有ニ係ルト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏シタル者ハ一月以上六

月以下ノ重禁錮ニ處ス但家資分散ノ際此罪ヲ犯シ

タル者ハ第三百八十八條ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百九十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯サントシ

テ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百九十八條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者

第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ

論セズ

第六節 贓物ニ關スル罪

第三百九十九條 強竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受

け又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月

以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下

ヲ罰金ヲ附加ス

第四百條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以

下ノ監視ニ付ス

第四百一條 詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナ

ルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ

爲シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ

二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七節 放火失火ノ罪

第四百二條 火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シ

タル者ハ死刑ニ處ス

第四百三條 火ヲ放テ人ノ住居セサル家屋其他ノ建

造物ヲ燒燬シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第四百四條 火ヲ放テ廢屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯フル

屋舎ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四百五條 火ヲ放テ人ヲ乘載シタル船舶汽車ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

其人ヲ乘載セサル船舶汽車ニ係ル時ハ重懲役ニ處ス

第四百六條 火ヲ放テ山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草竹木其他ノ物件ヲ燒燬シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百七條 火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四百八條 放火ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四百九條 火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十條 火藥其他激發ス可キ物品又ハ煤氣井蒸氣罐ヲ破裂セシメテ人ノ家屋財産ヲ毀壞シタル者ハ其故意ニ出ルト過失トヲ分チ放火失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第八節 決水ノ罪

第四百十一條 堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居シタル家屋ヲ漂失シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂失シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四百十二條 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シテ田圃礦坑牧場等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百十三條 他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百十四條 過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第九節 船舶ヲ覆沒スル罪  
第四百十五條 衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載シタル船舶ヲ覆沒シタル者ハ死刑ニ處ス但船中死亡ナキ時ハ無期徒刑ニ處ス

第四百十六條 前條ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載セサル船舶ヲ覆沒シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第四百十七條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第四百十八條 人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ園池ノ裝飾又ハ田圃ノ樊圍牧場ノ柵欄ヲ毀壞シタル者ハ十日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二

十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十九條 人ノ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十條 土地ノ經界ヲ表シタル物件ヲ毀壞シ又ハ移轉シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二十一條 人ノ器物ヲ毀棄シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十二條 人ノ牛馬ヲ殺シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰

金ヲ附加ス

第四百二十三條 前條ニ記載シタル以外ノ家畜ヲ殺シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四百二十四條 人ノ權利義務ニ關スル證書類ヲ毀棄滅盡シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四編 違警罪

第四百二十五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上

十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

一規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ物品ヲ

市街ニ運搬シタル者

二規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ物品又

ハ自ラ火ヲ發ス可キ物品ヲ貯藏シタル者

三官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者

四人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩

ヒタル者

五蒸氣器械其他烟筒火竈ヲ建造修理シ及ヒ掃除ス



ル規則ニ違背シタル者  
 六官署ノ督促ヲ受ケテ崩壊セントスル家屋牆壁ノ  
 修理ヲ爲サ、ル者  
 七官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シタル者  
 八自己ノ所有地内ニ死屍アルヲ知テ官署ニ申告  
 セス又ハ他所ニ移シタル者  
 九人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラサル者  
 十密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者  
 十一人ノ住居セサル家屋内ニ潛伏シタル者  
 十二定リタル住居ナク平常營生ノ産業ナクシテ諸  
 方ニ徘徊スル者  
 十三官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者

十四違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者但  
 被告人偽證ノ爲メ刑ヲ免カレタル時ハ第二百十  
 九條ノ例ニ從フ

第四百二十六條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上  
 五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢  
 以下ノ科料ニ處ス  
 一人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク  
 者  
 二水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦ス可キノ求メ  
 ヲ受ケ傍觀シテ之ヲ肯セサル者  
 三不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル  
 者

- 四健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病豫
- 三防規則ニ違背シタル者
- 五人ノ通行ス可キ場所ニアル危険ノ井溝其他凹所  
ニ蓋又ハ防圍ヲ爲サズル者
- 六路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ噬シ又ハ驚逸セシメ  
タル者
- 七發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者
- 八狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放チタル者
- 九變死人ノ檢視ヲ受ケスシテ埋葬シタル者
- 十墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚瀆シタル者
- 十一神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚損シタル者
- 十二公然人ヲ罵詈嘲弄シタル者但訴ヲ待テ其罪ヲ

論ス

- 第四百二十七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上  
三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五  
錢以下ノ科料ニ處ス
- 一濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
  - 二制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ  
牽キタル者
  - 三夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者
  - 四木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケス又ハ標識  
ノ點燈ヲ怠リタル者
  - 五瓦礫ヲ道路家屋園圃ニ投擲シタル者
  - 六禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カサル者

- 七汚穢物ヲ道路家屋園圃ニ投擲シタル者
- 八警察ノ規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シタル者
- 九醫師穩婆事故ナクシテ急病人ノ招キニ應セサル者
- 十死亡ノ申告ヲ爲サスシテ埋葬シタル者
- 十一流言浮説ヲ爲シテ人ヲ誑惑シタル者
- 十二妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符咒等ヲ爲シ人ヲ惑ハシテ利ヲ圖ル者
- 十三私有地外へ濫リニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シタル者
- 十四官許ヲ得スシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キタル者

十五路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ厠場等ヲ毀損シタル者

十六道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ヒ指道標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者

第四百二十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

一官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者

二渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取リ又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者

三渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フ可キ場所ニ於テ其定價ヲ出サスシテ通行シタル者

四路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者

五官許ヲ得スシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背シタル者

六溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル者

七制止ヲ肯セスシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル者

八官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放チ又ハ牧畜シタル者

九身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業トスル者

十他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者

十一他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者

第四百二十九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上

五拾錢以下ノ科料ニ處ス

一橋梁又ハ堤防ノ害ト爲ル可キ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者

二牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石薪炭等ヲ堆積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

三車馬ヲ並ヘ牽テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

四水路ニ於テ舟ヲ並ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者

五氷雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者

六官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲サ、ル者

七制止ヲ肯セスシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害

ヲ爲シタル者

- 八牛馬ヲ牽キ又ハ繫クコトヲ忽カセニシテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 九出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リニ出入シタル者
- 十通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行シタル者
- 十一道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シテ制止ヲ肯セサル者
- 十二酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者
- 十三路上ノ常燈ヲ消シタル者
- 十四人家ノ牆壁ニ貼紙及ヒ樂書シタル者
- 十五邸宅ノ番號標札招牌又ハ貸家賣家ノ貼紙其他報告ノ榜標等ヲ毀損シタル者
- 十六他人ノ田野園圃ニ於テ菜菓ヲ採食シ又ハ花卉

ヲ採折シタル者

十七公園ノ規則ヲ犯シタル者

十八通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入レタル者

第四百三十條 前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜ニヨリ定ムル所ノ違警罪ヲ犯シタル者ハ其罰則ニ從テ處斷ス

治罪法

第一編 總則

第一條 公訴ハ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルヲ目的トスル者ニシテ法律ニ定メタル區別ニ從ヒ檢察官之ヲ行フ

第二條 私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償贓物ノ返還ヲ目的トスル者ニシテ民法ニ從ヒ被害者ニ屬ス

第三條 公訴ハ被害者ノ告訴ヲ待テ起ル者ニ非ス又告訴私訴ノ棄權ニ因テ消滅スル者ニ非ス但法律ニ於テ特ニ定メタル場合ハ此限ニ在ラス

第四條 私訴ハ其金額ノ多寡ニ拘ハラズ公訴ニ附帶

シテ刑事裁判所ニ之ヲ爲スコヲ得但法律ニ於テ其  
裁判所ニ私訴ヲ爲スコヲ許サ、ル場合ハ此限ニ在  
ラス

又私訴ハ別ニ民事裁判所ニ之ヲ爲スコヲ得

第五條 公訴私訴ノ裁判ハ管轄裁判所ニ於テ現ニ施  
行スル法律ニ定メタル訴訟手續ニ從ヒ之ヲ爲スコ  
シ

第六條 刑事裁判所又ハ刑事裁判所ト民事裁判所ト

ニ於テ公訴私訴並起ル時ハ公訴ノ裁判ニ先テ私訴  
ノ裁判ヲ爲スコカラス若シ賠償返還ノ言渡アリタ  
ル後刑ノ言渡アリタル時ハ共ニ其效ナカル可シ

第七條 民事裁判所ニ私訴ヲ爲シタル時ハ檢察官ノ

起訴アルニ非サレハ願下ヲ爲シ更ニ刑事裁判所ニ  
其訴ヲ爲スコヲ得ズ

刑事裁判所ニ私訴ヲ爲シタル時ハ被告人ノ承諾ヲ  
得テ願下ヲ爲シ更ニ民事裁判所ニ其訴ヲ爲スコヲ  
得

第八條 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖

モ民法ニ從ヒ被害者ヨリ賠償返還ヲ要ムルノ妨礙  
ト爲ルコナカル可シ

第九條 公訴ヲ爲スノ權ハ左ノ條件ニ因テ消滅ス

一 被告人ノ死去  
二 告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付テハ被害者ノ棄  
權又ハ私和

三 確定裁判

四 犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止

五大赦

六 期滿免除

第十條 私訴ヲ爲スノ權ハ左ノ條件ニ因テ消滅ス

一 被害者ノ棄權又ハ私和

二 確定裁判

三期滿免除

第十一條 公訴期滿免除ノ期限左ノ如シ

一 違警罪ハ六月

二 輕罪ハ三年

三 重罪ハ十年

第十二條 私訴期滿免除ノ期限ハ被害者無能力ナル

時又ハ民事裁判所ニ其訴ヲ爲シタル時ト雖モ公訴

期滿免除ノ期限ト同一ナリトス

公訴ニ付キ既ニ刑ノ言渡アリタル時ハ民法ニ定メ

タル期滿免除ノ例ニ從フ

第十三條 公訴私訴期滿免除ノ期限ハ犯罪ノ日ヨリ

起算ス但繼續犯罪ニ付テハ其最終ノ日ヨリ起算ス

第十四條 期滿免除ハ刑事裁判所ニ於テ檢察官若ク

ハ民事原告人ヨリ起訴ノ手續ヲ爲シ又豫審若クハ

公判ノ手續アリタルニ因リ其期限ノ經過ヲ中斷ス

其未タ發覺セサル正犯從犯及ヒ民事擔當人ニ付テ

モ亦同シ



期滿免除ノ期限ノ經過ヲ中斷シタル時ハ起訴豫審  
又ハ公判ノ手續ヲ止メタル日ヨリ更ニ其期限ヲ起  
算ス但前後ノ日數ヲ通算シテ第十一條ニ定メタル  
期限ノ二倍ヲ超過ス可カラス

六

第十五條 起訴豫審又ハ公判ノ手續其規則ニ背キタ  
ルニ因リ無効ニ屬スル時ハ期滿免除ノ期限ノ經過  
ヲ中斷スルノ效ナカル可シ但裁判官ノ管轄違ナル  
ニ因リ其手續ノ無効ニ屬スル時ハ此限ニ在ラス  
第十六條 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場  
合ニ於テ其訴訟ノ原由告訴人告發人又ハ民事原告  
人ノ惡意若シハ重キ過失ニ出テタル時ハ是等ノ者  
ニ對シ損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得

被告人刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ告訴人告發人又  
ハ民事原告人ヨリ惡意若クハ重キ過失ニ因リ其犯  
罪ニ付キ過實ノ申立ヲ爲シタル時亦同シ  
民事原告人豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ上訴ヲ爲シ  
敗訴シタル時ハ被告人其上訴ニ因リ生シタル損害  
ノ償ヲ要ムルコトヲ得  
要償ノ訴ハ本案ノ裁判言渡アルマテ何時ニテモ其  
裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得  
第十七條 被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ裁判  
官檢察官書記又ハ司法警察官ニ對シ要償ノ訴ヲ爲  
スコトヲ得ス但是等ノ官吏被告人ニ對シ故意ヲ以テ  
損害ヲ加ヘ又ハ刑法ニ定メタル罪ヲ犯シタル場合

七

ハ此限ニ在ラス  
 第十八條 此法律ニ於テ期限ヲ計算スルニ時ヲ以テ  
 スル者ハ即時ヨリ起算シ日ヲ以テスル者ハ初日ヲ  
 算入セス若シ最終ノ日休暇ニ當ル時ハ期限ニ算入  
 ス可カラス但期滿免除ノ期限ハ此限ニ在ラス  
 一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ  
 三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ  
 第十九條 此法律ニ定メタル期限ニハ陸路八里毎ニ  
 一日ノ猶豫ヲ加フ八里ニ滿サル者ト雖モ三里以上  
 ナル時亦同シ  
 島地又ハ外國トノ路程ノ猶豫ハ別ニ法律ヲ以テ之  
 ヲ定ム

第二十條 此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル  
 期限ヲ經過シタル時ハ特別ノ場合ヲ除クノ外其權  
 ヲ失フ可シ  
 第二十一條 訴訟關係人ハ裁判所々在ノ地ニ住セザ  
 ル時ハ其地ニ假住所ヲ定メ書記局ニ届置ク可シ否  
 ラサル時ハ書類ノ送達ナシト雖モ異議ヲ申立ルコ  
 ヲ得ス

第二十二條 此法律ニ於テ訴訟關係人ニ書類ヲ送達  
 スルニ付キ別ニ規則アラサル時ハ書記其送達書ヲ  
 作り書記局所屬ノ使丁ヲシテ之ヲ送達セシム  
 若シ書類ノ送達ヲ受ク可キ者裁判所ノ管轄地外ニ  
 在ル時ハ其地ノ裁判所ノ書記ニ送達ノ事ヲ囑託ス

可シ

第二十三條 送達書ハ二通ヲ作り其一通ヲ本人ニ渡  
ス可シ本人ニ渡スコヲ得サル時ハ其住所ニ於テ同  
居ノ親屬又ハ雇人ニ渡ス可シ  
送達人ハ之ヲ受取リタル者ヲシテ其二通ニ署名捺  
印セシム若シ署名捺印スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ  
附記ス可シ  
同居ノ親屬又ハ雇人ニ書類ヲ渡スコヲ得ス若クハ  
是等ノ者之ヲ受取ルコト肯セサル時ハ其地ノ戸長  
ニ渡置キ戸長ハ其書類ニ認印シ速ニ本人ニ送達ス  
ルノ處分ヲ爲ス可シ  
送達人ハ書類ヲ受取リタル者ノ氏名場所及ヒ日時

十

ヲ其二通ニ記載ス可シ

本條ノ規則ニ背キタル時ハ書類送達ノ效ナカル可  
シ

送達人ハ其一通ヲ書記局ニ還納シ書記局ニ於テハ  
送達ノ證トシテ之ヲ保存ス可シ

第二十四條 休暇ノ日及ヒ日出前日没後ハ書類ノ送  
達ヲ爲ス可カラズ此規則ニ背キタル時ハ其送達ノ  
效ナカル可シ但本人承諾シテ其送達ヲ受ケタル時  
ハ此限ニ在ラス

第二十五條 官吏ノ作ル可キ書類ハ其所屬官署ノ印  
ヲ用ヒ年月日及ヒ場所ヲ記載シテ署名捺印シ每葉  
ニ契印ス可シ若シ官署ノ印ヲ用フルコト能ハサル場

十一

合ニ於テハ其事由ヲ記載ス可シ此規則ニ背キタル時ハ其書類ノ效ナカル可シ  
官吏ニ非サル者ノ作ル可キ書類ニハ本人自ラ署名捺印ス可シ若シ署名捺印スルヲ能ハサル時ハ官吏ノ面前ニ於テ作リタル場合ヲ除クノ外立會人代署シ其事由ヲ記載ス可シ

第二十六條 官吏其他何人ニ限ラス訴訟ニ關スル書類ノ正本又ハ謄本ヲ作ルニ付キ文字ヲ改竄ス可カラス若シ挿入削除及ヒ欄外ノ記入アル時ハ之ニ認印ス可シ文字ヲ削除スル時ハ之ヲ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存シ其數ヲ記載ス可シ此規則ニ背キタル時ハ其變更増減ノ效ナカル可シ

第二十七條 此法律ニ於テ定メタル豫審又ハ公判ニ付テノ規則ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニモ亦之ヲ適用ス

頒布以前ニ爲シタル訴訟手續當時ノ法律ニ背カサル時ハ其效アリトス

第二十八條 此法律ハ將來頒布ス可キ別段ノ法律ニ於テ豫審又ハ公判ノ手續ヲ定メタル犯罪ニモ亦之ヲ適用ス但其法律ニ牴觸スル規則ハ此限ニ在ラス  
從前頒布シタル別段ノ法律ニ於テ豫審又ハ公判ノ手續ヲ定メタル犯罪ニ付テハ前項ノ例ニ在ラス  
第二十九條 此法律ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ處分ス可キ者ニ適用スルヲ得ス

第三十條 此法律ニ於テ親屬ト稱スルハ刑法第一百  
四條第百十五條ノ例ニ從フ

第三十一條 通常刑事ノ裁判權ハ民事ノ裁判權ト同  
一ノ裁判所ニ屬ス  
第三十二條 裁判所ノ位置及ヒ管轄ノ區劃ハ司法卿  
ノ奏請ニ因リ上裁ヲ以テ之ヲ定ム  
第三十三條 裁判所ニハ檢察官一名又ハ數名ヲ置ク  
第三十四條 刑事ニ付キ檢察官ノ職務左ノ如シ  
一 犯罪ヲ搜查ス  
二 犯罪ニ付キ取調ノ處分及ヒ法律ノ適用ヲ裁判官  
ニ請求ス  
三 裁判所ノ命令及ヒ言渡ノ執行ヲ指揮ス

第二編 刑事裁判所ノ構成及ヒ權限

第一章 通則

第三十一條 通常刑事ノ裁判權ハ民事ノ裁判權ト同

一ノ裁判所ニ屬ス

第三十二條 裁判所ノ位置及ヒ管轄ノ區劃ハ司法卿

ノ奏請ニ因リ上裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 裁判所ニハ檢察官一名又ハ數名ヲ置ク

第三十四條 刑事ニ付キ檢察官ノ職務左ノ如シ

一 犯罪ヲ搜查ス

二 犯罪ニ付キ取調ノ處分及ヒ法律ノ適用ヲ裁判官

ニ請求ス

三 裁判所ノ命令及ヒ言渡ノ執行ヲ指揮ス

四 裁判所ニ於テ公益ヲ保護ス

第三十五條 檢察官一名ハ公廷ニ立會フ可シ

第三十六條 裁判所ニハ書記一名又ハ數名ヲ置ク

第三十七條 書記ハ豫審及ヒ公判ニ立會ヒ調書公判

始末書其他訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ作ル可シ

又裁判言渡書其他一切ノ書類ヲ保存ス可シ

第三十八條 犯罪ノ種類ニ因リ裁判管轄ヲ定ムルヲ

左ノ如シ

一 違警罪ハ違警罪裁判所

二 輕罪ハ輕罪裁判所

三 重罪ハ重罪裁判所

重罪及ヒ輕罪又ハ輕罪及ヒ違警罪ニ付キ同時ニ同

一ノ被告人ニ對シ訴アリタル時ハ附帶ノ犯罪ニ非

スト雖モ上等ノ裁判所併セテ之ヲ管轄ス

第三十九條 左ノ場合ニ於テハ附帶ノ犯罪ナリトス

一 同一ノ場所ニ於テ同時ニ一人又ハ數人ニテ數罪

ヲ犯シタル時

二 數人通謀シテ日時又ハ場所ヲ異ニシ數罪ヲ犯シ

タル時

三 自己又ハ他人ノ犯罪ヲ容易ニスル爲メ又ハ其罪

ヲ免カル、爲メ他ノ罪ヲ犯シタル時

第四十條 同等ノ裁判所ニ於テハ犯罪ノ地ノ裁判所

ヲ以テ豫審及ヒ公判ノ管轄ナリトス

犯罪ノ地分明ナラサル時ハ被告人逮捕ノ地ノ裁判

所ヲ以テ其管轄ナリトス

六

第四十一條 數箇ノ裁判所ノ管轄地内ニ於テ同時ニ  
又ハ繼續シテ一箇ノ罪ヲ犯シタル時ハ其中ヨテ被  
告人逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス  
數罪俱發ノ場合ニ於テモ亦同シ

第四十二條 犯罪ノ地ニ非サル裁判所ノ管轄地内ニ  
於テ被告人ヲ逮捕シタル時ハ最近ノ管轄裁判所ニ  
送致ス可シ

令狀ヲ以テ被告人ヲ逮捕シタル時ハ其令狀ヲ發シ  
タル裁判所ニ送致ス可シ

第四十三條 數箇ノ裁判所ノ管轄ナル場合ニ於テ被  
告人ヲ逮捕スルコト能ハス若シハ法律上逮捕スルコ

ト許サル時ハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ著手  
シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

第四十四條 從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其  
管轄ナリトス

數箇ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル正犯數名アル時ハ其  
中ニテ最初豫審又ハ公判ニ著手シタル裁判所ヲ以  
テ其管轄ナリトス

高等法院及ヒ陸海軍裁判所ノ管轄ニ付キ法律ニ於  
テ特ニ定メタル場合ハ本條ノ例ニ在ラス

第四十五條 外國ニ在テ犯シタル罪日本國ノ法律ニ  
依リ處斷ス可キ者ニシテ内地ニ於テ被告人ヲ逮捕  
シタル時ハ逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリト

ス又外國ヨリ送致シタル時ハ送致ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス  
 闕席裁判ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ被告人最終住所ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス其住所分明ナラサル時ハ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲ス可シ  
 第四十六條 商船内ノ犯罪ニ付テノ管轄及ヒ訴訟手續ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム  
 第四十七條 豫審ヲ爲シタル裁判官ハ其公判ニ干預ス可カラズ前ニ豫審又ハ公判ヲ爲シタル裁判官ハ哀訴及ヒ闕席裁判ニ對スル故障ヲ除クノ外其上訴ノ裁判ニ干預ス可カラズ此規則ニ背キタル時ハ其言渡ノ效ナカル可シ

第四十八條 裁判所ハ訴ヲ受ケタル事件ニ付キ自ラ其管轄ナリヤ否ヲ判決スルノ權アリ其判決ニ付テハ本案ノ事件終審ナル可キ場合ト雖モ通常ノ規則ニ從ヒ檢察官其他訴訟關係人ヨリ上訴スルコトヲ得  
 第二章 違警罪裁判所  
 第四十九條 治安裁判所ハ違警罪裁判所トシテ其管轄地内ニ於テ犯シタル違警罪ヲ裁判ス  
 第五十條 違警罪裁判所判事ノ職務ハ治安裁判所判事之ヲ行フ  
 判事差支アル時ハ判事補其職務ヲ行フ  
 第五十一條 違警罪裁判所檢察官ノ職務ハ其裁判所々在ノ地ノ警部之ヲ行フ



第五十二條 違警罪裁判所檢察官ハ毎月未決既決ノ事件表ヲ作リ輕罪裁判所檢事ニ差出ス可シ  
事件表ニハ違警罪裁判所判事認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

第五十三條 違警罪裁判所書記ノ職務ハ治安裁判所書記之ヲ行フ

第三章 輕罪裁判所

第五十四條 始審裁判所ハ輕罪裁判所トシテ其管轄地内ニ於テ犯シタル輕罪ヲ裁判ス  
又重罪及ヒ輕罪ノ豫審ヲ行フ  
又其管轄地内ノ違警罪裁判所ノ始審ノ裁判ニ對スル控訴ヲ裁判ス

第五十五條 輕罪裁判所判事ノ職務ハ裁判所長ヨリ始審裁判所判事一名又ハ數名ニ順次滿一年間之ヲ命ス

又滿一年間更ニ其職務ヲ繼續セシムルヲ得

第五十六條 豫審判事ノ職務ハ司法卿ヨリ始審裁判所判事一名又ハ數名ニ滿一年間之ヲ命ス

又滿一年以上其職務ヲ繼續ス可キヲ命スルヲ得

第五十七條 判事差支アル時ハ其他ノ判事又ハ判事補其職務ヲ行フ

判事補ハ豫審又ハ公判ニ立會ヒ意見ヲ述ルヲ得

第五十八條 輕罪裁判所檢察官ノ職務ハ始審裁判所檢事又ハ其指名シタル檢事補之ヲ行フ

第五十九條 輕罪裁判所書記ノ職務ハ始審裁判所書記之ヲ行フ

第六十條 東京警視本署長及ヒ府縣長官ハ各其管轄地内ニ於テ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査スルニ付キ檢事ト同一ノ權ヲ有ス但東京府長官ハ此限ニ在ラス

左ニ記載シタル官吏ハ檢事ノ補佐トシテ其指揮ヲ受ケ第三編ニ定メタル規則ニ從ヒ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査ス可シ

- 一 警視警部
- 二 區長郡長
- 三 治安判事

四 警部ノ在ラサル地ノ戶長

第六十一條 司法警察官檢察官又ハ裁判官ハ他ノ司法警察官檢察官又ハ裁判官ヨリ犯罪取調ノ爲メ其管轄地内ニ於テ證憑其他事實參考ト爲ル可キ事物ヲ集取ス可キノ囑託ヲ受クルコトアル可シ

第六十二條 檢事ハ二月毎ニ豫審及ヒ公判ノ未決既決ノ事件表ヲ作り控訴裁判所檢事長ニ差出ス可シ又違警罪裁判所檢察官ヨリ差出シタル事件表ヲ同時ニ檢事長ニ差出シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ  
事件表ニハ裁判所長認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

第四章 控訴裁判所

二五八

第六十三條 控訴裁判所ニ刑事局ヲ置キ輕罪裁判所ノ始審ノ裁判ニ對スル控訴ヲ裁判ス但其裁判ハ判事三名以上ニテ之ヲ爲ス可シ

第六十四條 刑事局判事ノ職務ハ裁判所長ヨリ其裁判所判事數名ニ順次滿一年間之ヲ命ス又滿一年間更ニ其職務ヲ繼續セシムルヲ得

第六十五條 刑事局判事差支アル時ハ裁判所長ヨリ民事局判事ヲシテ其職務ヲ行ハシム裁判所長ハ何時ニテモ裁判長ト爲ルヲ得

第六十六條 刑事局檢察官ノ職務ハ其裁判所檢事長又ハ其指名シタル檢事之ヲ行フ

第六十七條 檢事長ハ其裁判所ノ管轄地内ニ於テ輕罪裁判所檢事ニ屬スル司法警察及ヒ起訴ノ職務ヲ行ヒ又ハ其所屬ノ檢事ヲシテ之ヲ行ハシムルヲ得

又起訴及ヒ其他ノ職務ニ付キ其管轄地内ノ檢察官ニ告達スルコアル可シ

檢事長ハ其管轄地内ノ檢察官及ヒ司法警察官ヲ監督ス

第六十八條 檢事長ハ三月毎ニ豫審及ヒ公判ノ未決既決ノ事件表ヲ作り司法卿ニ差出ス可シ又輕罪裁判所檢事ヨリ差出シタル事件表ヲ同時ニ司法卿ニ差出シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

事件表ニハ裁判所長認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

第六十九條 刑事局書記ノ職務ハ其裁判所書記之ヲ行フ

第五章 重罪裁判所

第七十條 重罪裁判所ハ其管轄地内ニ於テ犯シタル重罪ヲ裁判ス

第七十一條 重罪裁判所ハ三月毎ニ之ヲ開ク

若シ事件夥多ナル時ハ控訴裁判所長及ヒ檢事長ヨリ司法卿ニ具申シ其許可ヲ得テ臨時開廳スルヲ得

第七十二條 重罪裁判所ハ控訴裁判所又ハ始審裁判

所ニ於テ之ヲ開ク

第七十三條 重罪裁判所ハ左ノ職員ヲ以テ裁判ヲ爲ス可シ

一 裁判長一名但控訴裁判所長ヨリ其裁判所判事中ニテ之ヲ命ス

二 陪席判事四名但控訴裁判所ニ於テ開ク時ハ裁判所長ヨリ其裁判所判事中ニテ之ヲ命シ始審裁判所ニ於テ開ク時ハ其裁判所長及ヒ先任ノ判事ヲ以テ之ニ充ツ

第七十四條 重罪裁判所檢察官ノ職務ハ控訴裁判所檢事長又ハ其指名シタル檢事之ヲ行フ  
始審裁判所ニ於テ開ク時ハ檢事長ヨリ始審裁判所